



神森連時報

発行所
秦野市菖蒲 317 番地
神奈川県森林組合連合会
総務指導課
電話 0463-88-8940
ホームページ <http://www.kenmoriren.jp/>

神奈川県運動方針

～JForest 森林・林業・山村未来創造運動～

県森連は、昨年度、5か年間（平成28年度～平成32年度）の神奈川県森林組合系統運動方針を策定しました。森林組合は、組合員のための組織であるということを強く意識した上で、経営の安定を図りながら、組合員の経済的利益の向上を追求することを基本に方針を作成しました。以下、要約した内容を紹介します。

△現状▽

系統森林組合では、平成24年度から水源林長期施業受委託事業や間伐材搬出促進事業等の水源環境保全・再生施策による県からの支援を受け、森林整備や間伐材の生産拡大に取り組んできました。その結果、森林整備部門の収益が伸び、平成28年度の系統全体の事業総収益は、23年度比22%増の25億7千4百万円（森

林組合30%増の18億5千万円、連合会8%増の7億2千4百万円）となり、また、間伐材の生産量にあつては、15%増の11,931m³と大幅な伸びとなった。しかし一方で、系統間で取組や間伐材の生産量に差が生じており、低調な組合の底上げなどが課題となっている。

（※この「現状」の文章は、28年度実績数値に置き換えて記載しています。）

△運動方針で実施すべきこと▽

- ① 長期施業受委託契約地を拡大しながら、集約化を図り、国庫補助事業の導入による財源確保に努める。
- ② 計画的な森林整備を進めるとともに、系統の労力・技術力・機械力を活用して間伐材の生産量を拡大し、県産材の安定供給を支える組織集団としての地位の確立を図る。

- ③ 引き続きA材、B材の販路拡大に努めるとともに、新たに木質バイオマス燃料としてのC材の販路を確保する。
- ④ 組合員への利益還元を図るとともにコンプライアンスを遵守し、信頼される組織づくりを努める。

△取組内容▽

① 施業集約化と効率的な事業基盤の整備

長期施業受委託契約地については、順次、森林経営計画を策定して施業の集約化を進め、系統間で締結した連携協力協定を活用し、人材や技術力、機械力を融通しながら、作業路の開設や高性能林業機械の活用による効率的な作業を進め、間伐材生産量の増とコスト削減を図る。

② 県産材の安定供給対策

系統のスケールメリットを活かし、出材された材の多様な販売先を確保する。特に、木質バイオマス燃料としてのC材については、系統を中心に、より多くの県産材を集荷する態勢を構築し、これをチップ化して、県内に建設予定の木質バイオマス発電所へ供給する態勢を具現化する。

③ 組合員・社会に信頼される開かれた組織づくり

コンプライアンス態勢を強化するため、研修等を通じて役員員の意識・能力向上を図り、執行業務のチェック体制の徹底や員外監事の登用、役員員の常勤化等により内部統制を強化するとともに、事業規模に見合った人材の確保・育成や労働災害防止の徹底を図る。また、組合員のニーズを把握し、森林整備・管理の相談や相続対応、森林・林業に関する情報提供など組合員へのサービスの提供に努める。

△系統挙げて取り組んでいきましょう▽



「秦野市菩提地内」

長期施業受委託事業の取組成果と今後の取組

平成24年度から始まった長期施業受委託事業は28年度で5年が経過しました。森林組合として取り組むべき本来事業として、県の支援を受けながら森林整備を進め、発生する間伐材を搬出する取組を系統一丸となつて進めてきました。

これまでの事業実績は、表のとおりで、この5年間で系統全体の契約面積は1,489ha、間伐面積は1,218ha、開設した作業路は71,984mとなりました。また、これらの森林整備により発生した間伐材を間伐搬出促進補助金を活用して搬出し、23年度4,687mであった間伐材等の生産量が、平成28年度には、11,931mと飛躍的に増加しました。

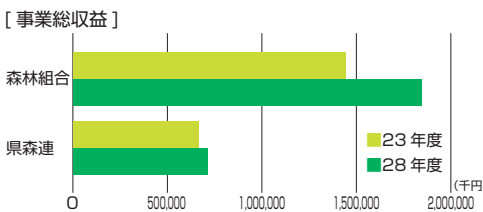
こうした取組により、森林組合の経営は安定し、全ての組合で経常利益が黒字となりました。また、県などの公的機関への事業（請負）依存度が減り、組合員に間伐材の売上利益をキャッシュバックできるように協同組合としての本来の役割・機能を徐々に取り戻しつつあります。

系統としては、今後も長期施業受委託契約地の拡大を図っていく

こととしていますが、確保予定森林の所有規模がより小さくなり、これらの森林の所有者を特定しながら同意を取り付けて契約まで持つていく作業は、これまで以上に手間暇を必要とします。

また、契約地を拡大したとしても、水源環境税から長期施業受委託事業に振り向けられる財源には限りがあります。確保した森林の整備を順次計画的に確実に進めていくためには、国の補助事業を活用し、水源環境税との合わせ技で、より多くの財源を確保することが求められます。このためには、順次、個々の契約地をまとめて森林経営計画を策定し、国の森林整備のための補助金が受けられる態勢を整備する必要があります。このことは、ポスト水源環境税を見据え、これに代る財源を確保する上から必須の取組でもあります。

いづれにしても、今後の長期施業受委託事業は、これまで以上に困難な取組を強いられることとなりますが、組合員のため、組合員のこと、組合員であることを強く意識



し、系統全体で歩調を合わせ、協力して協同組合としての責務を果たせるよう努力していきましょう。

(単位: 面積 ha、延長 m)

区分	森林組合	県森連	計
契約面積	1,347ha	142ha	1,489ha
間伐実施面積	1,158ha	60ha	1,218ha
作業路開設延長	63,709m	8,275m	71,984m

※長期施業受委託事業の平成24～28年度までの実績累計

(単位: m)

区分	森林組合	県森連	計
23年度実績	4,527	160	4,687
28年度実績	10,133	1,798	11,931

※系統で取扱った長期施業受委託事業含む間伐生産の全量

平成30年度農林水産施策等要望

神奈川県森林・林業5団体（木材業協同組合連合会、山林種苗協同組合、森林協会、林業経営者協会、森林組合連合会）を代表し、県森連が県農林水産団体協議会（長嶋喜満会長）県農協中央会会長の一員として県、政党（自民党、民進党、公明党の国会議員及び県会議員）に対して、7月から8月にかけて順次、内容説明の上、平成30年度農林水産施策等要望を行いました。森林・林業関係の要望の概要は次のとおりです。

- 一 森林環境税（仮称）の創設に当たっては、受益と負担のバランスに配慮しつつ、地方自治体が独自に課税している制度との調整を図るとともに、地方への交付にあたっては、都道府県が市町村を支援等できる仕組みを構築すること
- 二 県が管理する承継分収林等の契約満期後の森林管理の仕組みを検討すること
- 三 長期施業受委託事業や間伐材搬出促進事業の予算を確保すること
- 四 間伐を繰り返して行う施業方針は維持しつつ、流域単位ごとに一定のエリアを定め、皆伐・再造林を推進すること
- 五 間伐材を利用した木質バイオマス発電用燃料チップの生産施設整備へ支援すること
- 六 県の公共建築物への県産材利用を促進すること
- 七 県産材を利用した災害仮設用の住宅資材を備蓄する態勢を構築すること
- 八 箱根外輪山を中心とした県西地域のニホンジカの個体数調整等を進めること
- 九 市町村が作成する林地台帳整備などへの財政的支援等を行うこと

新事務所が完成



厚木市旭町にあった本部事務所が老朽化し耐震性に問題があったことから、秦野市菖蒲の林業センターに事務所を新築し、平成29年5月1日に移転、同月11日に落成式典を行いました。

神奈川県森林組合連合会は、昭和16年11月14日、太平洋戦争の直前に設立され、幾多の変遷を経て今年で76年目を迎えます。戦後の復興期には、木材が飛ぶように売れ、また、拡大造林の推進時期には、苗木の取扱量がピーク時の昭和36年には3百60万本を超えるなど、盛況な時代もありました。しかし、昭和55年をピークに木材価格は下落・低迷の時代に入り、本会の経営も長く苦しい時代が続き、木材

共販事業の中止を真剣に議論したこともありました。

平成19年度、神奈川県に水源環境税が導入され、間伐材などの森林整備を加速させ、間伐材を積極的に搬出する仕組みが構築されたことなどにより、長いトンネルから抜け出すことができました。こうした時期に、新事務所を建設することができたことは、誠に喜ばしい限りです。

新事務所は、RC構造の2階建、延床面積680平方メートルで、内装には神奈川県産のスギを使用し、スギの床材の下地には、厚さ12ミリの神奈川県産のヒノキの構造用合板が敷き詰められています。木の香りのする真新しい快適な空間で気持ちを新にし、役職員一同より一層の努力を重ね、新たな事業にもチャレンジしてまいります。今後ともこれまでと変わらぬご指導・ご鞭撻の程お願い申し上げます。



演台の寄贈を受ける



系統の10森林組合から新事務所の完成記念として演台の寄贈をいただきました。伊勢原産のヒノキを使って厚木市森林組合が製作したもので、材質の良さと高い加工技術により高級感のある仕上がりとなっております。2階の会議室に置かせていただき、末永く愛用させていただきます。ありがとうございます。

森林整備業務の優良施工者に礼状

県央地域県政総合センターでは、毎年度、センターが発注する工事、設計および工事監理におい

て、優良な工事等を施工した業者に対して、所長から礼状が贈呈されています。

平成28年度から、新たに森林整備業務が加えられました。森林整備業務では、平成25年度から27年度までに完成した業務で、優れた施工技術をもって、適正な工程管理を行い、その出来栄が特に優れ、他の模範となる施工を行った4業者（うち森林組合3）に平成28年12月21日、所長から礼状の贈呈がありました。贈呈を受けられた森林組合は、次のとおりです。津久井郡森林組合、清川村森林組合、厚木市森林組合
おめでとございます。



森林整備作業班を創設

当会では平成24年度から箱根町、湯河原町において地域水源林長期施業受委託事業を実施してきましたが、平成28年度で確保地が140haを超え今後も拡大していくことから森林整備を自ら実施する必要性に迫られ作業班を創設することとなりました。

班員は3名からなり、2名は経験者で1名は森林塾から採用しました。

森林整備と並行して、新たに購入したバケット型グラブにより、作業路を開設し、効率的な作業により、積極的に間伐材を搬出して



いく予定です。

班員の紹介と意気込みについて3人に聞いてみました。

■鈴木優一 32歳(班長) 写真中央

【趣味・ラゲビー、釣り、筋トレ】

本人コメント「作業班長として効率よく仕事が進むように頑張ります。」

■石川聖 32歳 写真右

【趣味・サーフィン、運動】

本人コメント「新規事業に携われて光栄です。結果が出るように誠心誠意努めます。」

■矢後興大 26歳 写真左

【趣味・スキー、登山、音楽鑑賞】

本人コメント「日々精進して、安全第一で頑張ります。」

以上、年齢的にはまだまだ若手の3人ですが、これからさまざまな経験を糧に成長をしていきたいと思っておりますので、ご指導ご鞭撻のほどをよろしくお願いします。

本会新規取組事業の紹介

1 間伐材生産効率化事業

神奈川県では、間伐材の搬出を支援し有効利用を図ることで森林整備を促進するとともに、持続的・自立的な森林管理を目指すために従来から本会が補助事業者として生産指導活動事業と県産木材流通コーディネート事業を行っています。

本年度からこれらに加え、より生産効率の高い搬出方法を現地検証し、1日あたりの搬出量の増加など生産性の向上を図ることを目標とした間伐材生産効率化事業に取り組むことになりました。概ね3年間で高性能林業機械(レンタル機)の間伐材搬出にかかる調査データを集積し、県独自の調査と併せて県内での素材生産性や生産経費についての分析を行うこととしています。

2 承継分収林現況調査等委託業務

神奈川県が管理している承継分収林は、今後順次分収契約期間の満了を迎えます。



「山北町中川地内」

養機能などの公益的機能を今後も持続的に発揮させていく水源の森林エリア内にあります。そこで県では、契約満了後のこれらの森林管理を誰がどのように担っていくのかを明確にするため、本会が県から業務委託を受け、承継分収林の現況や立木評価等の現地調査を行うことになりました。今年度は4市町村で約800haを実施します。この調査を基に、県が引き続き管理していく必要があるとされた森林は「環境保全分収林」として新たな契約を県と結ぶことが想定されます。

都市型バイオマス発電所の地鎮祭

(株)横須賀バイオマスエナジーは、7月21日同社発電所(横須賀市浦郷町)の地鎮祭を行い設計監理、施工業者など56名が出席し、本会もご招待を受けました。

同発電所は、青森県平川市や宮城県石巻市で発電事業の実績がある(株)タケエイが70%を出資し2019年2月末の竣工、同年春の売電を予定しています。

発電能力は6,950KW、主燃料は近郊自治体等から出る剪定枝、その他間伐材、補助燃料として



RPF(廃プラ)を使用する予定です。消費する燃料は、年間9万生トンで発電所に併設してチップ工場を新設するほか、地元からのチップの受け入れも予定しています。

本会は、同発電所へ間伐材(C材)をチップにして供給する予定で、2016年9月に(株)横須賀バイオマスエナジーと供給協定を締結しました。

発電所の竣工に向け、今後チップ生産施設の整備や運搬コストの削減、間伐材の量的確保に向け取り組んでまいります。

神奈川県協同組合連絡協議会が発足

2012年、国連が定めた国際協同組合年(IYC)にあたり、農協生協、漁協、県森連、労働者協同組合等でIYC県実行委員会を立ち上げ記念行事を開催し、その後、協同組合間の連携のあり方が検討されてきました。そして、2017年3月7日、非営利・協同の価値を共有する組織との幅広い連携により、本県の協同組合とりわけ単位組織間の連携と、県民の協同組合に対する理解を促進し、協同組合運動の発展と住みよい地域社会づくりに寄与することを目的に85団体により神奈川県協同組

合連絡協議会が発足(農協19、生協23、漁協21、森林組合9、働く人の協同組合4、関係団体9)しました。

神奈川県森林組合連合会 役員の変更

- 代表理事 会長 小泉 清隆(新)
- 副会長 岩澤 衛(新)
- 代表理事 専務 服部 俊明
- 常務理事 谷 善造
- 理事 今井 栄
- 理事 神崎 英男(新)
- 理事 鈴木 碩鎮(新)
- 代表 監事 北村 眞佐雄
- 監事 後藤 典重
- 監事 佐藤 治男(新)

単位森林組合 新任組合長

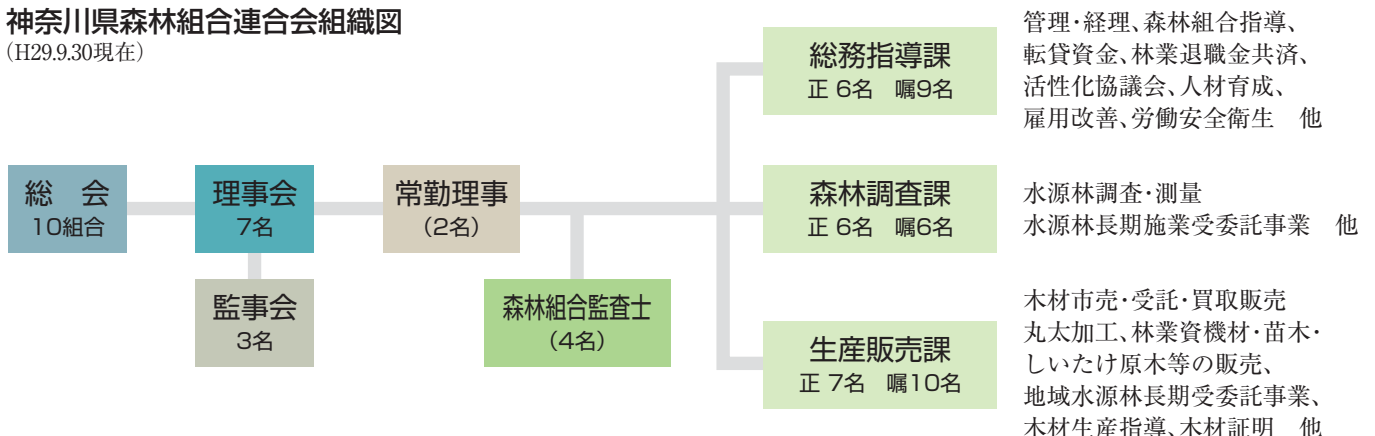
- 津久井郡森林組合 代表理事 組合長 佐藤 治男
- 厚木市森林組合 代表理事 組合長 神崎 英男
- 伊勢原市森林組合 代表理事 組合長 平田 光一
- 山北町森林組合 代表理事 組合長 山口 清

神奈川県森林組合連合会 職員の変更

- 栗原 昭一 平成29年3月
- 長田 健 平成29年3月
- 野々山 直人 平成29年4月
- 小塩 研二 平成29年8月

神奈川県森林組合連合会組織図

(H29.9.30現在)





松田町森林組合

おおだち こずえ
■大館 こず江

【平成29年7月1日付採用】

【趣味 音楽鑑賞】

平成29年7月1日より職員として採用して頂きました大館と申します。

5年前臨時職員として勤務し始めたところは、右も左も分からず森連の指導課の方をはじめたくさんの方々にご指導頂きました。

今後は、5年間の経験を生かし組合事業の発展に貢献できるように精一杯努力してまいりますので、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願ひ申し上げます。



山北町森林組合 【職名】技術員

いしだ たかひさ
■石田 貴久 25歳

【平成29年4月1日付採用】

【趣味 炭焼き・狩猟】

山北町森林組合の新採用となりました石田です。私は大学卒業後の3年間、福井県で炭焼きの修行をしていました。この経験を活かしつつ、地元山北町で汗を流せばとの思いがありました。

採用から4か月が経ち、未だわからないことばかりですが、先輩方の温かいご指導のもと前向きな展望を持つて仕事に取り組むことができている。まずは目の前の仕事を確実に、効率よくこなせるよう、日々精進してまいりますと思います。



南足柄市森林組合 【職名】職員

たかはし けんと
■高橋 健人 24歳

【平成28年10月1日付採用】

【趣味 キャンプや登山】

私が当組合に入社した理由は大学時代や前職で培った技能を使って、地元のために尽くしたいと考えたためです。大学時代にGISを用い研究を行い、前職ではGISにて対象地を見定め交付金算出を行っていました。

これまで培ってきたパソコンスキルと趣味で養った体力を使って、南足柄の森林のために貢献していきたいと考えています。まだまだ学ぶことが沢山ありますが、何卒よろしくお願ひいたします。



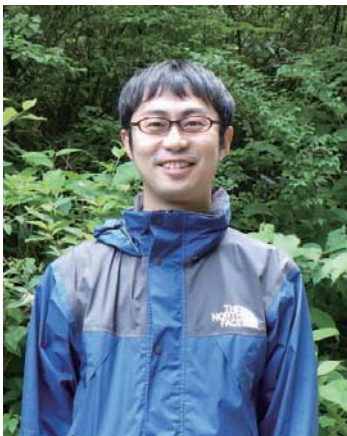
小田原市森林組合 【職名】技師

とうじょう ふみとも
■東條 史朋 29歳

【平成29年4月1日付採用】

【趣味 自転車】

平成28年の5月に小田原に、引っ越してきました。今年の4月から正職員として働かせていただき2年目になります。去年1年、書類作成や山での調査・測量、指定管理者をしている小田原市いこの森の仕事と色々なことをやらせていただきました。あつという間に過ぎ去っていったように感じます。時間の流れに置いて行かれぬように、できることを増やせるように、早く一人前に働けるように頑張ります。よろしくお願ひいたします。



神奈川県森林組合連合会 【職名】 専門員

古藤 智徳 43歳

【平成29年4月1日付採用】
【趣味】 釣り、ゴルフ

今年度より生産販売課専門員として入会致しました古藤 智徳と申します。

この三月まで、長野県にありま
す信州上小森林組合で十五年間、
現場の作業員として造林や林産作
業、作業路の開設等の仕事に従事
しておりました。

県森連では主に加工業務を担当
する一方、今まで現場で培った知
識と経験を生かして、直営の作業
班の指導にも携わっております。
これからの林業の発展の為、微力
ながら役に立てるよう努力してま
いりますので、今後ともご指導、
ご鞭撻のほどよろしくお願いいた
します。



森林施業プランナーの ご紹介

愛川町森林組合 【職名】 参事代理

大野 晋作

戦後の拡大造林により植林され
た人工林は成熟しつつあります。一
方で手入れ不足の人工林も多く近
年の異常気象により風水害等の災
害リスクが高まり、健全な森林生
態系へ誘導するため、間伐を中心と
した施業の実施とその伐採木の利用
が課題となっています。

当組合では長期施業受委託事業
を主体に施業地の集約化を進め、
路網整備や間伐を中心とした森林
整備を行い、その間伐材を積極的
に搬出し利用しております。

しかし、現在木材価格が底をつい
ており、愛川町がある県央地域周
辺では急峻な地形が多く搬出経費
がかさむことから補助金を活用して
も所有者に収益を還元することがで
きないことが多々あります。

貴重な森林資源を荒廃させず次
世代へ引き継ぐためにも所有者が林
業への関心を高め、長期に渡り森林
施業を継続していくことが重要で
す。そのために更なる搬出コスト削
減や有利な取引先の確保等を進め、
しっかりと所有者への収益還元を行
い、森林経営意欲向上へ繋げて行け
るよう努力して参りたいと思えます。

「緑の雇用」研修を 修了して

秦野市森林組合

長谷川 理恵

秦野市森林組合に入社5年目と
なり、昨年度、緑の雇用を修了さ
せて頂きました。

現在、組合の作業員として主に
森林調査及び測量、事業計画の作
成、山林所有者への事業内用の説
明等の仕事をしています。

間伐等の素材生産を行う作業を
普段は従事していないため、緑の
雇用で植え付けから伐採まで学ば
せて頂いたことは私にとって貴重
な経験になりました。現場を知ら
なければ、計画を立てることも他
の作業員との意思の疎通をはかる
こともできません。

大学を卒業し林業の仕事を志し
て間もない私に、研修を共にした
方々は作業のアドバイスや情報を
くださいました。とても感謝して
います。

素材生産・森林調査及び計画・
管理に至るまで幅広く緑の雇用で
学べたことが、今後の種となり仕
事で実になるよう、日々精進して
いきます。

森林保険は今年で80年を迎えます。

森林保険制度は、昭和12年に、林
業経営の安定を目的として山火事
による災害跡地の復旧を推進するた
め、林齢20年以下の人工林を保険の
対象に、森林火災国営保険として創
設されたのが始まりです。

その後、林齢制限が撤廃され、次い
で風害、水害、雪害、干害、凍害、
潮害の6種の気象災が加えられ、名
称も森林国営保険と改められまし
た。さらに噴火災が加えられ、総合
的な保険として制度の充実が図ら
れました。

このように国が直接、運営してき
ましたが平成27年4月に主体を国か
ら国立研究開発法人森林総合研究所
(現森林研究・整備機構)に移し、「森
林保険」として新たにスタートしま
した。

そして今年(平成29年)、森林保
険制度は創設80年を迎えました。
これからも皆さまのお役に立つ森林
保険として、迅速かつ丁寧な対応に
努めて参ります。また、契約者・被
保険者へのサービス向上と保険運営
の安定性確保の観点から、継続割引
の新設、社会のニーズや政策の方向
性に応じたサービスを提供するため
の花粉症対策苗木割引の新設、最近
の災害リスクをタイムリーに保険料
率へ反映させるためのルール設定な
どの商品改定の検討を進めて、より
良い森林保険の提供を目指して参
ります。

(国立研究開発法人森林研究・整備機構
森林保険センター)



森林とともに80年
森林保険

木材共販市況

共販事業では、9月までは入荷量が少ないことと夏場での材の傷みの影響を少なくするため、市を開催せず相対販売を実施しています。8月の共販での受託販売素材取扱量は約1,000m³。また、買取販売で478m³の素材を販売しました。

販売状況は、スギ・ヒノキとも主要部材である柱や土台、中目材など、ほぼ全規格に注文があるものの、时期的な買い控えの状態が続いており、荷動きは鈍く相場は弱保合で推移しています。共販にあつては、取扱量の大半がB材ということもあり、8月の平均単価は8000円台まで落ち込んでいます。一方、C材については、バイオマス燃料向けに順調な荷動きとなっております。

これから秋需の時期となり、国有林の良材の入荷が始まったことから、製品用材を中心に今後の荷動きと相場の底上げを期待したい。また、加工用の小径丸太については、秋以降に本格的な需要期を迎えることとなりますが、毎年原材料不足に悩まされており、早め早めの出荷を是非お願いします。

県森連林業センター 木材市況

平成 29年 9月 14日

(単位：円)

樹種	長さ (m)	末口径 (cm)	価格 1m ³ 当り			気配	摘要	
			高 値	中 値	安 値			
スギ	3.0	14	11,000	9,000	3,000	○	柱目3.5寸	
		16~18	12,000	10,000	4,000	○	// 4寸	
		20~	12,000	10,000	4,000	○	中目	
	4.0	11~13	10,000	8,000	4,000	○	母屋取り	
		14	10,000	8,000	5,000	○	桁目3.5寸	
		16~18	10,000	9,000	5,000	○	// 4寸	
		20~22	11,000	10,000	6,000	○	中目	
		24~28	12,000	11,000	6,000	○	//	
		30~	14,000	12,000	6,000	○	//	
	6.0	16~18					通し柱4寸	
20~22						// 5寸		
ヒノキ	2.0	30~	25,000	10,000	5,000	○	元玉	
		3.0	14	15,000	13,000	8,000	○	柱目3.5寸
			16~18	18,000	16,500	14,000	○	// 4寸
			20~22	18,000	16,500	14,000	○	中目
			24~28	17,500	15,500	13,000	○	//
	30~	18,000	15,500	13,000	○	元玉選木		
	4.0	11~13	10,000	9,000	8,000	○	母屋取り	
		14	13,000	11,000	8,000	○	土台目3.5寸	
		16~18	17,000	15,500	12,000	○	// 4寸	
		20~22	17,000	15,500	12,000	○	中目	
		24~28	15,000	13,000	10,000	○	//	
		30~	17,000	15,000	10,000	○	//	
		30~	30,000	25,000	15,000	○	元玉選木	
6.0	16~18	35,000	25,000	20,000	○	通し柱4寸		
	20~22	35,000	25,000	20,000	○	// 5寸		

注)売上総数量 848.459m³

△ 強気配 ○ 保合 ▼ 弱気配